

お芋の試食会を通して



先日堀ったさつま芋。子ども達にとっては小さくてひょろひょろお芋も立派な収穫。小ぶりお芋を両手いっぱいに「見て～！6本もとれた～！」と喜ぶ姿がとても印象的でした。

後日、味見程度に園長先生がふかしてくれたものを「どんな味かな？」と試食会。

一口食べ「おいしいね」「あまいね」「もっと食べたい」と素朴なお芋の味を堪能していました。

食べていく中で話題はお芋メニューについて話しが広がり「私は干し芋が好き！」と新たな食べ方をお話ししてくれる子も…

「今みんなが食べたのは蒸かして作ったんだよ」と伝えると「ふかす？」と疑問も…

「みんながお風呂に入っているのと同じ感じで体がやわらかくなったりきもちいいでしょ？」

「暑い蒸気(お風呂)に入ってさつまいももやわらかくおいしくなるんだよ」

「じゃあ焼き芋ってどうやって作ると思う？」⊕「焼く！炎！！」と言葉の意味を考えたり連想させたりして蒸かし芋以外にもさつま芋料理があることを知った子どもたち。

「もっとたべたい！」から「じゃあどうやって食べたらいいかな？」とさらに話は広がり子どもたちのお芋ミーティングへつながっていました。

子どもたちから出たさり気ない一言を大人が拾い、取り上げていくことで自然と周りの子もその子の声に耳を傾けようとしていました。そこから生まれる会話の広がり…まとまりのない会話をまとめようとはせず私たちも一緒に目線に立つことで子ども達の価値観に共感性が生まれ、対話する面白さを感じられました。